

〈報告〉

サッポロ珈琲館【Rinboku】とのパッケージデザイン コンペティション開催報告

近澤潤* 坂本牧葉† 杉澤愛美‡

A Package Design Competition in Collaboration with Sapporo Coffee-Kan Co., Ltd. “Rinboku”

Jun CHIKAZAWA* Makiba SAKAMOTO† Manami SUGISAWA‡

要旨

本学情報メディア学科教員と株式会社珈琲サッポロ珈琲館とが主催し、江別市に協力を得てドリップバッグコーヒーのパッケージデザインコンペティションを実施した。参加した学生たちは、店舗や製品の魅力や江別市の魅力を学び、それらをもとにデザインを制作した。20 作品の中から3 点の作品が優秀賞に選ばれ、実際の製品パッケージに採用されることが決定した。今回の取り組みを広く周知するため、展示と表彰式を実施した。

Abstract

Hokkaido Information University’s Department of Information Media, in collaboration with Kobou Sapporo Coffee-Kan and with support from Ebetsu City, hosted a package design competition for drip-bag coffee. Participating students learned about the appeal of the store, its products, and attractions in Ebetsu City, and then created designs based on this knowledge. Out of 20 entries, three designs were selected for excellence and chosen to be used on the actual product packaging. In order to publicize this initiative, an exhibition and award ceremony were held.

キーワード

ブランドイメージ (Brand image) パッケージデザイン (Package design) デザインコンペティション (Design competition) 産学官の連携 (Industry-academia-government collaboration)

* 北海道情報大学情報メディア学部情報メディア学科講師, Lecturer, Department of Information Media, Faculty of Information Media, HIU

† 北海道情報大学情報メディア学部情報メディア学科講師, Lecturer, Dept. of IM, HIU

‡ 北海道情報大学情報メディア学部情報メディア学科講師, Lecturer, Dept. of IM, HIU

1. はじめに

近年では、大学と企業や地方自治体との連携プロジェクトが積極的に行われている。本学情報メディア学科においても、これまでにいくつもの連携活動が試みられてきた。例えば、外部施設の Web サイト制作や、学外でのプロジェクションマッピングの実施などが挙げられる。栗山駅南交流拠点施設「栗山煉瓦倉庫くりふと」は、2023 年 1 月にオープンした夕張郡栗山町の町立の施設であり、3D プリンターなどデジタル工作機器を備えた工房やキッチンなどの多様な用途を持つ。「くりふと」の Web サイト制作は、本学学生が教員とともにプロジェクトとして取り組んだ（斎藤・杉澤. 2023）。本学安田研究室では、江別市と連携して市内のパン屋を包括的に紹介する Web サイトを制作に取り組んだ（えべはん collection. 2024）。江別市は小麦の品種「ハルユタカ」の全国有数の生産地であり、多くのパン屋が点在していることが市の魅力の 1 つである。

デザイン分野における学外との連携プロジェクトでは、成果がわかりやすく学外に公開されるため、授業の課題とは異なる緊張感やモチベーションにも繋がる。また、学外の人達との関わりや明確な目的がデザインの実践的教育に大いに有効だと考えられる。本稿では、本学情報メディア学科と株式会社珈房サッポロ珈琲館が主催し、江別市にも協力を得た個装のドリップバッグコーヒーのパッケージデザインコンペティションについて報告する。なお、本コンペティションの参加者は本学情報メディア学科の学生 20 名である。

2. サッポロ珈琲館【Rinboku】

サッポロ珈琲館【Rinboku】は、株式会社珈房サッポロ珈琲館が 2022 年にオープンした喫茶店である（株式会社珈房サッポロ珈琲館. 2024）。サッポロ珈琲館は札幌市内に 10 店舗の喫茶店を運営しているが、【Rinboku】は初の江別市出店である。有形文化財に登録されている江別市文京台の北海道林木育種場旧庁舎を利用した店舗で、同社の本社および焙煎工場としても活用している。

北海道林木育種場旧庁舎は、昭和 2 年に建築された林業試験場である（江別市. 2022）。石材と木材を組み合わせた構造と外観を持ち、大正・昭和初期のハーフティンバー様式を基調としている。外壁と内装の改修が行われているが、現在も当時の歴史を感じることができる建物である。

3. コンペティションの開催

3-1 キックオフミーティング

本コンペティションの開催に際し、関係者を集めたキックオフミーティングを行った（図 1）。ミーティングは 2023 年 11 月 9 日にサッポロ珈琲館【Rinboku】で開催した。当日は、株式会社珈房サッポロ珈琲館代表取締役社長の伊藤仁氏、江別市役所の関係者、および本学の実施教員 3 名、本プロジェクトに参加する情報メディア学科の学生 20 名のうち 12 名が参加した。



図 1 ミーティングの様子

ミーティングでは、まず江別市関係者が江別市の概要と有形文化財である北海道林木育種場旧庁舎について説明した。次に、伊藤氏がサッポロ珈琲館の概要、コーヒーが作られる過程、サッポロ珈琲館のコーヒーの特徴について説明を行った。パッケージデザイン制作の対象製品である『Drip Café』の試飲も体験した。

その後、施設内の見学を実施し、通常は非公開の応接室や研修室も見学した（図 2）。



図 2 施設見学の様子

3-2 作品募集の内容

ミーティングと施設見学で得られた情報をもとに、サッポロ珈琲館【Rinboku】のドリップバッグコーヒー製品、『Drip Café』の個装パッケージのラベルシールのデザインを募集した。シールのサイズは幅 80mm×縦 95mm であり、作品の縦横は自由とした。その他の制作要件の詳細

は、資料に示して参加学生に公開した。参加学生には Adobe Illustrator の提出用フォーマットも配布し、提出の際に使用してもらった（図 3）。フォーマットには、ラベルのデザインの他に「デザインで伝えたいこと」、「なぜそれを伝えたいか」、「工夫した点」を文章で述べてもらい、フィードバックの際に考慮した。なお、希望者は複数作品を応募しても良いこととした。

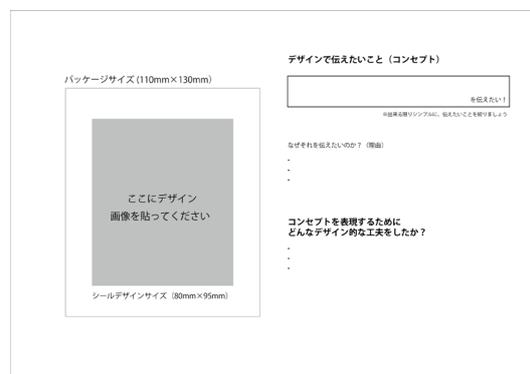


図 3 提出用フォーマット

3-3 応募作品へのフィードバック

本コンペティションでは、優秀作の実際のパッケージへの採用を予定していた。そこでブランドイメージに合ったクオリティの高い作品を制作してもらうため、途中でフィードバックコメントを参加学生に送りブラッシュアップして再提出してもらう形式をとった。最終締め切り前にラフデザインと一次締め切りの 2 回、提出をしてもらった。提出スケジュールを下記に示す。

- ラフデザイン提出：2023 年 12 月 18 日
 - 1 次締め切り：2024 年 1 月 31 日
 - 最終締め切り：2024 年 3 月 11 日
- 教員とサッポロ珈琲館の 2 者が協議し、①サッポロ珈琲館の魅力をも十分に表現できているか、②江別市の魅力を表現

できているかなどの点から、すべての応募作品デザインへのアドバイスを検討した。それらをフィードバックコメントとしてまとめ、個別に参加学生に送った。フィードバックコメントでは、デザインの良い点、改善点の2点を示した。

3-4 選考

選考にあたっては、最終締め切りに応募された14名20作品を対象として、2024年3月27日にサッポロ珈琲館、江別市企画政策部政策推進課、教員の3者により行われた。選考の観点は、事前に参加学生に伝えていた制作要件を遵守していることを前提に、①サッポロ珈琲館の魅力をも十分に表現できているか、②江別市の魅力を表現できているかを軸に選考した。その結果、商品化する作品である優秀賞を3点、佳作を3点と、江別市役所企画政策部が選定した江別シティプロモート賞1点の計7点を選出し、さらに同店で開催する展示において観覧者による投票で最も得票数が多い作品にオーディエンス賞1点を選出することを確認した。

4. 展示と表彰

4-1 展示

今回の産学官連携の取り組みと学生から応募されたすべての作品を広く周知するため、最終締め切りに応募された20作品のパッケージデザインと制作コンセプトなどをパネルにまとめて展示した。会場はサッポロ珈琲館【Rinboku】のギャラリーとし、2024年4月2日(火)～5月8日(水)を会期とした。パネルの他にすべての応募デザインをラベルシールに印刷し、実際の製品に貼り付けたものも展示した(図4,5)。展示会場では、オーディエンス賞の選出の



図4 展示風景(ギャラリー右側)



図5 展示風景(ギャラリー左側)



図6 オーディエンス賞選出のための
投票用パネル

ため、観覧者が最も気に入ったデザインに投票できる「パッケージ選挙」を実施した(図6)。展示の様子は取材を受け、北海道新聞に掲載された(土門, 2024)。

4-2 表彰式

成果を学内外に広く紹介し、聴講学生においては授業以外のプロジェクト参加な

どの自主的な取り組みへの意識の醸成を目的として、2024年5月20日に情報メディア学科科目である「情報メディア学I」の授業内で表彰式を開催した。表彰式開催にあたり、サッポロ珈琲館社長の伊藤氏、江別市役所関係者、北海道新聞記者が来学した。教員からこれまでの取り組みを紹介するとともに、伊藤氏より受賞者に対して賞状・盾・副賞を授与した(図7)。表彰式にて優秀賞受賞作である販売予定の製品も公開された(図8)。その後、伊藤氏と受賞者、教員によるトークセッションを行い、デザイン考案に関する体験談、AIなどの先進的な情報技術を活用した取り組みについてディスカッションすることで(図9)、聴講学生に対して自主的な取り組みを勧める内容とした。表彰式とトークセッションの様子は新聞の取材を受け、北海道新聞に掲載された(土門, 2024)。

5. まとめと今後の展望

サッポロ珈琲館【Rinboku】の魅力と、江別市の魅力とをテーマとしたドリップバッグコーヒーのパッケージデザインのコンペティションを開催した。コンペティションでは、関係者によるレクチャーや店舗見学を実施し、参加学生にフィードバックを送ってブラッシュアップしてもらうなど、およそ5ヶ月間に渡って制作に取り組んだ。その後、取り組みを周知するための展示や表彰式を実施した。参加学生が最終応募の際に応募シートに取り組みの感想を書いてもらったところ「緊張感があったが、できる限りの表現で制作できた」など苦労もしたが高い満足度が得られたことが伺えるコメントが多く確認された。また、「江別市について理解が深まった」、「表現方法を模索する中で新たな考え方が身についた」など、実施教員が意図したデザイ



図7 授賞式



図8 販売予定の製品



図9 トークセッション

ンと地域への理解の深まりが確認できた。また、今回の取り組みは本学の学外PRとしても効果的だったと言える。作品の展示と表彰式は、ともに新聞掲載されるに至った。さらに当該商品は、江別市のふるさと納税の返礼品として提供され、市内の郵便局での販売も予定されている。

今後、プロジェクトを実施する際は、コンセプト策定へのAIの活用や、学生同士

でのディスカッションの機会の設定など、柔軟にアイデアを創出するための取り組みを実施していきたいと考えている。

謝辞

サッポロ珈琲館【Rinboku】の伊藤氏をはじめとするご関係の皆様、ならびに江別市役所企画政策部政策推進課の皆様に、ここに記して感謝の意を表します。

参考文献

- 土門寛治（2024）「コーヒーパッケージ 道情報大生考案」北海道新聞 2024 年 4 月 18 日朝刊 14 面, 江別版。
- 土門寛治（2024）「道情報大生 3 人が優秀賞 コーヒーパッケージ・デザインコンペ」北海道新聞 2024 年 5 月 23 日朝刊 16 面, 江別版。
- えべばん collection（2024）<https://ebetsu-sumikae.info/ebepan/>（2024 年 5 月 17 日アクセス）。
- 江別市（2022）「北海道林木育種場旧庁舎」
<https://www.city.ebetsu.hokkaido.jp/site/kyouiku/3025.html>（2024 年 5 月 15 日アクセス）。
- 株式会社 珈房サッポロ珈琲館（2024）「珈房 サッポロ珈琲館」
<https://sapporocoffeekan.co.jp/>（2024 年 5 月 15 日アクセス）。
- 斎藤一・杉澤愛美（2023）「栗山駅南交流拠点施設「栗山煉瓦創庫くりふと」WEB サイト制作」『北海道情報大学紀要』, 第 35 巻, pp. 67-73。